The Service Club for the YMCA
Affiliated with the International Association
of Y's Men's Clubs
Chartered 1994

THE Y'S MEN'S CLUB
OF YOKOHAMA－TOTSUKA
C/O SHONAN TOTSUKA YMCA
69－24, Kamikurata, Totsuka,
Yokohama, Japan 〒244－0816
Tel 045―864―4768

とつか

２０２２年９月会報　第３３５号

2022～2023 主題

国際会長(IP)　Samuel Chacko　(Indea)
主　題 "Into the next 100 Years with FELLOWSHIP & IMPACT"
「フェローシップとインパクトで次の 100 年へ」
スローガン"BEYOND SELF and BE THE CHANGE"「自己を超えて、変化を起こそう」

アジア太平洋地域会長(AP)　Chen Ming Chen　(Taiwan)
主　題 "Elegantly Change with New Era"「新しい時代とともに、エレガントに変化を」
スローガン"Doing It Right Now"「今すぐ実行を」

東日本区理事(RD)　佐藤重良 (甲府 21)
主　題 "Let's act now for the future"「未来に向けて今すぐ行動しよう」
スローガン"Do something for someone and have an enjoyable club life for yourself！"
「誰かのために奉仕して　自分のための楽しいクラブライフを！」

湘南・沖縄部部長(DG)　小松仲史 (厚木)
主　題「楽しく・元気よく・前向きに」・副　題:入りたくなるワイズにしよう

クラブ会長　吉原　訓　　会長主題「原点回帰」
副会長　若木一美・書記　加藤利榮・会計・岡　進・メネット　吉原和子・担当主事　瀬戸俊孝

《会員ひと言》

一つの国際交流プログラムから…

薩摩　藤太

かつて日本が経験した戦争が終わった日、そして日本全国で平和を祈念する８月１５日、湘南とつかYMCAでひとつの国際交流プログラムを実施した。ウクライナ南部のオデーサ市から、姉妹都市の横浜市に避難してきている子どもたちに対し、湘南とつかYMCAのリーダー、専門学生、学童クラブ児童が準備を進め交流プログラムを実施、「おもてなしをしたい。」「リラックスして楽しんでもらいたい。」という気持ちを伝えた。これまでも継続してウクライナ支援のための募金活動を行ってきたユースや子どもたちにとって、今、この瞬間にも家族がウクライナの地でエッセンシャルワーカーとしての働きにある子どもたちの姿はどう映っただろうか…。

国際支援活動＝「善い行い」「正しいこと」といったようなシンプルな理解から、より自分事として引き寄せ、彼らに寄り添っていこうとする態度に変えられる経験は、次世代を担う子どもたち･若者たちにとってかけがえのない財産になると思いますが、とつかワイズメンズクラブの皆様の、日ごろお考えのこのような支援活動に関し、お話しなどを伺いたいと思います。

◎今月の聖句◎

主は人の一歩一歩を定め、御旨にかなう道を備えてくださる。

―詩編第37章23節―

主は私たち一人ひとりの歩みを見ておられます。人生の祝福は、その長さよりもその内容にあります。－主を愛し　主を喜び　主に喜ばれる、そのような道より優れた道はほかにはありません。

私たちを最高に生かし、用いてくださる主にこの人生をささげたいと願います。

強調月間　：　EMC

Extenshon, Menbership & Conservation
クラブ拡張・　会員増強　と　会員の維持啓発運動
ワイズメンズクラブの基本的用語ですね…。

会員の高齢化・減少に歯止めを…と、新しいクラブ作りや新会員の獲得・増強は喫緊の課題ですね…。

例年開催のユースボランティア･リーダーズフォーラムやワイズ法人化などの問題は、ワイズのＰＲに大いに力を発揮してくれることに留意しましょう。

会員数		８月の会合		出席率
メ　ン	11	メ　ン	8	92%
メネット	8	メネット	1	
		ゲストら	0	
計	19	合　計	9	

ファンド他	ＢＦ (円)	ＢＦ (g)	CS・TOF・ＡＳＦ (円)	ＢＡＰＹ (円)	ロバ (円)
前月迄	0	0	0	0	0
当　月	0	0	0	0	0
累　計	0	0	0	0	0

★強い義務感を持とう　義務はすべての権利に伴う★

会長報告

☆　8月の第2例会から　☆

吉原　訓

日時：８月１６日(火)18時～20時
場所：湘南とつかYMCA･205号室
出席：浦出・加藤・薩摩・土方・
　　若木・吉原　　計）６名

標記の会が対面スタイルで開かれました。８月期は、コロナには関係なく、従来から、第１例会は休会月にしてきましたので、今回もこの日だけです。それと、今期は議事に先立ち、監事による前期の会計監査も実施しました。資料は、事前に会計担当の岡さんから作成・提出されていたので(この日は岡さんが急用のためやむなく欠席)、現金出納簿や通帳残高等の詳細な資料を基に、加藤・若木両名による点検・監査を行い、いずれも正確・適正に記帳・処理されていることを確認し、その旨が記載された報告書が作成されました。

議事に入り、「１.報告」では、７月に小松部長の公式訪問を頂いて開かれた第１例会をはじめ、部評議会・エクステンション委員会･先ほどの会計監査報告・厚木からの例会案内などを中心に、会長及び書記から報告、披露が行われた。また、YMCA関係では薩摩館長から、ウクライナへの支援の状況、会員総会･エイズ文化フォーラムなどの状況が報告された。(「ウクライナ…」については「会員ひと言」参照)

次の「２.協議」では、９月例会は20日(火)18時･とつかY･卓話は薩摩館長となりました。また、YMCAから、今年度チャリテイーランは、予定通り開催することとなるので支援方の要請がありました。(末尾「YMCA便り」参照)

20時、予定した議事のすべてを終了、玄関ホールで記念写真に収まり(下記)、散会しました。

爽秋随想

☆　クラブ開設30周年に想う…　☆

加藤　利榮

横浜とつかクラブは、横浜YMCAが創立110周年記念事業の一環として、湘南とつかYMCAを1994年２月、現在の地に建設･活動を開始したことに伴い、その協働･奉仕役として横浜クラブをオヤに設立、同年３月19日、国際加盟認証状伝達式(チャーターナイト)を挙行、現在に至りました。設立経過の状況は、「日本ワイズメン運動70年史」の408ページに詳しく載っています。

クラブ設立25年の際に作成した「クラブ25周年記念年譜～25年のあゆみ～」を見ますと、チャーター時のメンバー数は25名、そしてその中には、岡進･吉原訓･若木一美・加藤利榮の４名の皆さんが、いわばチャーターメンバーとして、今なお活躍中です。

…というわけで、記念式典・記念講演者の選定・開催の日時・交流会等の記念イベントは、いつも湘南とつかYMCAと一体となって歩んできました。念のため申し上げますと、10周年では、横浜･ズーラシア増井光子園長、20周年では、赤い靴文化事業団の松永春理事長といった方々をお迎えしての記念講演をいただいております。さらに交流会では、運営委員会などを通じ、日ごろお世話になっている地元の有志にお出で頂き、感謝状や記念品などを贈呈し、交流に努めてきました。また両イベントとも大高　聡さんに担当主事や館長として深く関わっていただいておりました。

閑話休題、オハナシの中味がいつのまにか、お堅くなってしまったようですが、２年後に迫った「30周年イベント」をいかにすれば…というのが、今や明日のことも測り知れなくなっている昨今のコロナ・ヤスミのなかで思う一番気にかかる事柄です…。

今、‘明日のことも…’と書き、あたかもコロナ禍に責任を押し付けているような表現になりましたが、一歩下がって考えてみますと、～いや、率直に申して～周りに扶けられながらの日常を過ごしている私にしてみれば、そろそろここらが、60年余にわたったワイズライフのエンディングかナ…とフト思ったからにほかなりません。‘脅かすなよ…’と言われそぅですが…。この辺りは　何も私だけに限ったことではありません…、あまり深く考えないことにしましょう…。ウチのクラブに限らず、ワイズの‘高齢化’には歯止めが掛かりそうにもありません。これは、ロータリーもライオンも同じような問題を抱えているのだそぅです…。‘いっそ定年制にしたら…。’と思ったりもします。

そして、コロナの追い打ち…、オトシヨリにとっては、安閑としてはおれない日々です…。ついでに気になることは、そんなこんなで、ワイズのお役も引き継ぎを…などと思うことさぇあります…。

その辺はさておき、取りあえず30周年…でしょうか。

皆さん、いかにお考えでしょう…。

横浜とつかワイズメンズクラブ
25周年記念
年　譜
～横浜とつかクラブ25年のあゆみ～
INTERNATIONAL
2019年5月18日
湘南とつかYMCAホール

特別寄稿

☆雀に学ぼう！危機管理☆　（その２）

湘南･沖縄部部長　小松仲史（厚木）

コトバを持たない雀は行動で教え、学んでいるのです。

人間の場合、どこが危ない、どのようなことが危険か…、情報を大量に持っております。

自転車の二人乗り・三人乗り、そして右側通行・無灯火、こんなのは当たり前…、自転車は信号を守らなくてもいいと思っている人さえいます。『とまれ』の道路標識できちんと止まる人はほとんどいませんし、踏切での一時停止をしている人は、まず見掛けません…。また、歩道を走っているかと思えば、車道にいきなり出てきて、後ろも見ずに右折していく自転車…。これらの行動は、無言で子どもたちに交通ルールは守らなくてもいいんだよ…と教えていることになるのです。

～子どもに学んでほしい事…～

連れ去りの場合、その多くは車を使用して行います。車からは一定の距離を保って歩き、特に駐車中の車に対しては、すぐ脇を通らないようにします。スライド・ドアの場合、30センチもあればドアを開け、中に引き入れることができます。これは、学校の登･下校時においても同様です。まずは、学校内で見知らぬ人を見掛けたら、みんなで挨拶をし、‘あなたを確認しましたよ…’とアピールし、案内を頼まれた場合には、案内する人を先に歩かせ、3･4歩後から、右とか左とかの案内をし、常に逃げられる間隔を取ることが大事で、そのような行動が、『この学校にはスキ…が無い。』ということを無言でアピールいたします。

～雀の危機管理～

人のいる場所に出没するが、群れて行動し、決して油断をしない、とりあえずすぐに逃げる…。親が、自分の行動をもって子どもに危機管理の在り方を教えいていきます。危険な経験を忘れずに、二度と同じ目に合わないようにしています。日の出とともに行動し、日が暮れれば巣に帰ります。

わが身を守るのはあなた自身なのです…。　〈以下次号〉

《レザン通信》

横浜 YMCA ワークサポートセンター　相馬　良文

「今年の夏は行動制限のない夏」と言われておりましたが、感染者は身近なところにも発生しておりました。夏季休暇前の‘お楽しみプログラム’も、遠出を避ける結果となりました。

ＪＲ戸塚駅に集合し、自分で食べたいものを探すなどして、‘買い物’を楽しみました。予算 1,500 円でのランチは十分に満足いくものになったようです。

食後のデザートはアイス工房のジェラートで締めくくられました。

暑い夏を元気に乗り切って、気持ちのいい秋を迎えたいものですね…。

沖縄随想

☆　ちむどんどん　☆

元沖縄ＹＭＣＡ総主事　秋重　殉

過日、私のスマホに聞きなれぬ番号でコールがありました。高齢者の一人でもある私は注意深く応対すると、それは、オキナワと沖縄ＹＭＣＡ、さらにワイズに熱い思いを寄せておられる加藤利榮さんからブリテンへの原稿依頼でした。なぜ私が…と一瞬戸惑いましたが、それは私が 1992 年から 4 年間、沖縄ＹＭＣＡで業務に携わった故であることに気付きました。

沖縄ＹＭＣＡは、本土復帰前の 1962 年に「米軍統治下ににある青少年の健全育成のため必要なもの」として設立されています。私が赴任した年はＹＭＣＡ創設 30 周年の年でした。

沖縄那覇ワイズメンズクラブは 1966 年、当時の日本のワイズメンズクラブの錚々たるメンバー・指導者たちの導きにより、その趣旨を「…ＹＭＣＡのあらゆる分野にわたるプログラムを発展させるための立派な指導者を作る母体にすること」として、横浜クラブをスポンサーに誕生しています。そして以来、那覇クラブが横浜（湘南部）に名を連ねることとなった所以でしょう。

私の赴任中、ワイズの皆さんはクラブライフを楽しみながらＹＭＣＡのすべてのプログラムや行事などに積極的に関り、ご支援いただきました。感謝の念に堪えません。加えて、沖縄にさらに新しいクラブ「沖縄しぃーさぁークラブ」まで誕生しました。

離任して早や 26 年になりました。引き続き親しく交わりを頂いている方々からお聞きしているＹＭＣＡの今、ワイズの今に時には感嘆し、時には納得しています。

個人的な思いで申し訳ありませんが、今振り返ってみますと、沖縄赴任の 4 年間は私の人生で掛け替えのない日々でした。

私は沖縄の話を頂くまでは沖縄に関しては全く無知でした。精々学生時代のデモ行進などで「固き土を破りて、民族の怒り燃える島沖縄よ…沖縄を還せ、沖縄を還せ」と歌っていたくらいでした。この歌は 1972 年沖縄が本土復帰以来今でも歌われています。ただし「沖縄を還せ、沖縄へ(に)還せ」と歌われています。今年は復帰５０年、沖縄は今も沖縄に戻っていないのです。

YMCA便り

～　障がいのある子どもたちの社会参加のために～

瀬戸俊孝

第25回横浜YMCAインターナショナルチャリティーランが、今年も2022年10月15日（土）リアル大会と10月17日～31日の期間でオンライン大会にて行われます。新型コロナウィルスの影響で2020年度からオンライン大会を導入して安全に配慮して開催しています。今年は、部分的にですが、リアル大会を再開してハイブリッドの形式で行います。コロナ禍の厳しい状況ですが、今までとは違う形で新しい大会を目指します。

ワイズの皆さんには、共催という形で実行委員長を湘南・沖縄部部長の小松さん（厚木クラブ）に担っていただき、各クラブではチームのスポンサー（50,000円募金）、外部への広報協力、当日ボランティア（人数制限をさせていただきます）など、様々な形で協力いただき、感謝いたします。

集まった募金は、YMCAで行われる障がいのある子どもたちのプログラムを実施する際の補助とさせていただく予定です。一人でも多くの参加者のサポートができるように大会が盛会になるよう引き続きのご協力・ご支援よろしくお願いします。

【今月の歳時記】　　‘鶏頭’と‘名月’

鶏頭：古名カラアイ。熱帯に産出、その後日本に渡来。観賞用として栽培、９月上旬ころ赤・黄・白などの鶏冠状の花を付ける。霜の降りる頃まで咲き続ける。

花言葉は、「凋まぬ恋・色褪せぬ恋」

鶏頭の十四五本もありぬべし　　子　規
鶏頭に秋の日の色きまりけり　　万太郎
月あがるまでくれなゐや鶏頭花　　青　邨

名月：陰暦８月15日は、中秋の名月である（今年は９月１０日）。一年中でこの夜の月が最も澄んで美しいとされる。秋草・虫の音・夜露・涼風などがいっそう月を引き立たせる。中国では、中秋節として祝う。

名月や池を巡りて夜もすがら　　芭　蕉
名月や畳の上に松の風　　其　角
十五夜の雲のあそびてかぎりなし　　夜　半

会合のご案内　　会　長

◎　9月6日(火)・１9時：第95回Y-Y's協議会
◎　９月20日(火)・18時：第１例会・とつかYMCA

HAAPPY　BIRTHDAY
有田幸征彦さん　9月20日
滿出昭吉さん　　9月27日

【その歴史】　☆YMCA－Y's協議会☆

‘会合案内’にもあるように、今回で、なんと９５回を数えます。協議会の歴史を概略辿ってみましょう。

初めのころは「会長会」と称し、1996年ころ、吉村総主事の頃だったと記憶している。翌97年、山根総主事時代に、現在の形～クラブ役員と対応YMCA担当主事が出席、３か月ごと・カウントも始まった。双方のイベントや要望、その他…で、当然のことながら、双方の間に、目に見えて、コミュニケーションが深まり、円滑になった。15年ほど前には実施要綱も定められ、形式も整った。

参考までに、実施要綱の全文を掲載する。

◎　横浜YMCA－ワイズメンズクラブ（Y-Y's）
協議会実施要綱

１　目的

この要綱は、横浜YMCAと湘南・沖縄部に所属する沖縄２クラブを除く各クラブ（以下「各クラブ」という。）が、それぞれの働きにより適正。活発に推進するため、定期的にY－Y's協議会（以下「協議会」という。）を開催して懸案事項の解決及び情報の交換を行い、もって双方が更なる活動を展開し、協働することを目的とする。

２　構成員

協議会は、YMCAは総主事及び各クラブ担当主事、各クラブは部役員及びクラブ役員（会長・副会長・書記･会計）をもって構成する。ただし、他のYMCA職員及びワイズメン、メネットは随時、列席することができる。

３　議　長

協議会の議長は、各クラブが輪番でこれに当たり、当該クラブの会長が議長を務める。

４　協議会

協議会は、議長が招集し、原則として３か月ごとに開催する。

５　議事録

協議会の議事録は、議長を務めるクラブ担当主事が担当し、次の協議に当たるクラブに引き継ぐ。

６　経過措置

この要綱は、原則としてこの要綱施行前に生じた事項にも適用する。　　2008年６月３日施行

〈後記〉　今年の十五夜はいかに…。　　B/E